

私と交通安全、無事故の秘訣

(中 部) (株SM J. Y)

事故を起こしたくないという想いは、プロドライバーに限らず運転する者にとって誰もが思う共通の事でしょう。事故をいかに防止するかは、運転をする者はもとより同乗する人、車を製造する人まで皆が思い願うことです。岐阜県のとある運輸会社は、自社のトラックドライバーに対して、トラックの運転席から運転視界の邪魔にならない所と言う条件で、「家族の写真」を運転席から見える位置に置いてよいという話を、テレビのクイズ番組で紹介していたのを以前に見たことがあります。

写真を置くことにより愛する家族を想い、運転が優しくなったり、歩行者や自転車対向車などに思いやりの心を持つことが出来るからでしょう。

<写真を置くだけ>というシンプルな行為ですが、安全運転、思いやり運転には非常に有効な、そして説得力のあるアイデアだと感じました。このように無事故の秘訣・秘策は、大きな意味で「心に余裕・ゆとり」を持つ事だと思います。

例えば、自分の運転技術が最大値100だとします。もちろん、ありとあらゆる事を想定しての運転技術を測定する機械などありませんが、あくまで仮定です。そう仮定しての話ですが、「通常時の運転は60の力で行いなさい。」と私にアドバイスをくれた方がいました。「あとの40は、緊急時の為の心の余裕として持っておけ」と。

なるほど！ごく当たり前のことですが、ハッとさせられる思いでした。抽象的な話にも聞こえますが、私の心に響く言葉でした。

トラックでの安全運転には、荷物の積み込や積み下ろしも重要な事のうちの1つです。つまり、運搬運転中に荷崩れを起こしたら、運転に集中出来ないのは容易に想像できます。あってはならない事ですが、誤配をしまい予定時刻より遅れてしまったら、運転手も、遅れを取り戻すためスピードをあげることを考えるでしょう。そうすれば当然、事故の確率は高まります。

自分で積み込んだ荷物だからと、「確認」をいい加減に行うことを防止し、自分が積み込んだ荷物であっても、荷物を降ろす時に「確認」を再度徹底的に行う為に、自分に確認の緊張感を与える・・・そう言う戒め的な荷積み方をするのも、能率的・効率的な安全運転に繋がっていくと思います。

以前私は、自家用車の運転中、スーパーの駐車場で事故を起こしたことがあります。後方確認をしないで、不用意にバックをした為に、後ろにいた車に自分の車の後部を相手の車の前面に当ててしまいました。

ハンドルを握る者のほんの少しの気の緩み、油断、イライラからくる不用意な行動が、後からその何十倍、何百倍の大きな代償となって自分に降りかかってくる事の重大さを、私は改めて学ぶことになりました。

話は変わりますが、運転の心得は「木登り」に似ていると思うことがあります。そう、子供の頃にやったあの木登りです。子供の頃にやった木登りを思い出して下さい。木に登って行く時に、手をつかむ位置・足を置く所を予測し、安全を確保しようとします。「ここなら足を置いても大丈夫だな」と、目で確認し、実際の感触を手や足で再確認して、それが出来たら腹を決めて登っていくために力を出す。木登りはこれの繰り返しです。

時には、「この枝に掴まって折れはしないか？」、「ここに足を置いて踏み外しはしないか？」など、確認に確認を重ねて踏み出します。そうして登って行きます。そして、登り切ったら、今度は降りて来る時、つまり運転でいうなら帰り道ですが、登る時と同様に、いやそれ以上に注意して降りて来ます。

運転するという事も同様です。「猿も木から落ちる」という諺があしませんが、猿が木から落ちるのは、本人の経験不足や未熟さもあるでしょうが、大方は油断・不注意からくるものかと思います。

最後に、安全運転は集中力を持つ事、そして<広い視野を持つ事>だと思います。

視野には2つあり、1つは、実際の目の前にある光景を見る視野と、もう1つは、<心の視野>だと思っています。

家族写真の話から、猿や木登りの話まで、色々書きましたが総合的に運転は、心配りのある広い視野で、目の前の光景に集中していくことだと思います。

道路の端に歩行者が立っていて、左右の行きかう車をチラチラ見ているようであれば「道路を渡りたいのかな？」「道路を横切ってくるかもしれないな」と思って、スピードを緩め、注意を払う。走行中、前を走る車がやや蛇行気味に走っていたりして、後ろから見えていても注意力散漫に感じる・・・ひょっとして携帯電話を触りながら運転しているのかも・・・と思ったら、前の車をなじったり腹を立てるのでは無く、自分の運転に一層注意を払い走行し、業務を行うと言う「心の視野を広く持って」での運転に努めていく事、それが無事故への最大の秘訣だと、私は思っています。